

ロンドン自然史博物館を訪問して

派遣国名：イギリス 受入機関：ロンドン自然史博物館 派遣期間：2011.1.7～2011.2.14

私は組織的な若手研究者等海外派遣プログラムの支援を受け、ロンドン自然史博物館に1カ月滞在し、研究を行いました。

環境負荷の低い作物栽培体系の確立が進められているなか、害虫防除の分野では、東アジア地域に特徴的な豊かな土着天敵相を利用した防除体系の構築が望まれています。とくに、寄生蜂類は有力な天敵資源と考えられています。国内における寄生蜂類の分類学的研究には未解明の部分が多く残されています。重要害虫であるカメムシ類やウンカ類、ミバエ類からも多数の寄生蜂が確認されているものの、ほとんどが未同定にとどまっています。日本以外の東アジア

諸国においても同様の状況です。そこで、私はこれまでの害虫の調査で得られた東アジア産寄生蜂類の同定を目的とし、既知種の標本が多く保管されている、ロンドン自然史博物館を訪問しました。

既知種との比較の結果、ダイズサヤタマバエの寄生蜂など、4種の天敵寄生蜂を同定することができました。今後、これら寄生蜂の生活史や寄主範囲などを調査し、より円滑に同定が進められるようなシステムを構築したいと考えています。

私と同時期にロンドン自然史博物館を訪問している他の研究者とも、これまでの研究の紹介や最近の研究結果などについて、大変有意義な議論をすることができました。今回の派遣で得た経験や研究者ネットワークを活かし、国際的な研究活動を進めていきたいと思えます。また、得られた研究成果を活かし、さらなる研究発展へと繋げていきたいと考えています。

最後に、本派遣事業においてご支援いただきました先生方やスタッフの皆様には心から御礼申し上げます。



ロンドン自然史博物館の外観



標本室の様子